

熊本駅周辺整備におけるワーキングシステムのあり方に関する研究

Research on the Working System for Redevelopment around the Kumamoto Station

山本 良太

Ryota YAMAMOTO

現在、熊本駅では、九州新幹線開業に伴い、周辺の整備が進められている。この整備は、「熊本駅周辺整備基本計画」を基に行われており、デザインの統一性や長期にわたる一貫性を図る仕組みとして「熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議」が設置されている。本研究では、継続性を考慮したメンバー構成で、また、実務関係者の合議による都市デザイン調整を行っている、設計の実働部隊である「都市空間デザインワーキングシステム」に着目する。このような場における議論は重要であると考え、議論の進め方と関係者へのヒアリング調査を実施し、それらを整理することで、WGの有効性と課題を抽出した。

Key Words: Kumamoto Station, Kyushu Shinkansen, Redevelopments around the station, Total Design, Working System,

1. はじめに

1.1 背景と目的

現在、熊本駅では、平成 23 年の九州新幹線開業、平成 28 年の在来線高架化完了に伴い駅周辺整備がすすめられている。すべての整備が完了するのは、平成 30 年ごろと長期にわたり、整備区域は約 63ha と広域である。整備全体の統括は県と市が設置した熊本駅周辺整備事務所（以下、駅周辺事務所）が行っている。駅周辺事務所は、平成 17 年 6 月に、整備の基本方針であるパーク・ステーション構想や整備区域、各事業のスケジュールについて示した「熊本駅周辺地域整備基本計画」（以下、基本計画）を公表している。そして、この基本計画で位置付けた都市空間デザイン計画に基づき、熊本駅周辺における良好な都市空間形成を図るとともに、事業主体間の調整によるデザインの統一性や長期にわたるデザインの一貫性を図る仕組みとして「熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議」（以下、デザイン会議）を設置している。

都市デザインの調整の仕組みには、マスターアーキテクト方式（以下、MA 方式）などがある。ツリー状の組織を形成し、トップダウンで議論を進める MA 方式に対して、熊本駅のデザイン会議は、トップを置かず、合議制で行っている。また、設計を実働するメンバーで構成する、都市空間デザインワーキングシステム（以下、WG）を設けている。この WG は、継続性を考慮し、若手・地元を意識したメンバーで構成されている。このように、フラットな議論の場で、実務関係者の合議により都市デザイン調整を行う仕組みは、これまでにない試みであり着目すべき対象だと考える。本研究では、このような場における議論の進め方を整理しておくことが重要であると考え、熊本駅周辺整備における WG のあり方について有効性と課題を示すことを目的とする。

1.2 研究方法と研究の流れ

WG のあり方の考察を行うにあたり、その方法として、平成 17 年 9 月 6 日の第 1 回 WG から平成 19 年 12 月 26 日の第 45 回 WG までの議事調査を行った。また、詳細に WG を分析するため、熊本駅周辺整備事業に携わっている行政・学識経験者・コンサルタントを対象にヒアリング調査を実施した（表 - 1）。3 章では、熊本駅周辺整備の概要について述べる。3.1 節では、議事調査を行い、整理する。3.2 節では、WG の議事分析を行い、3.3 節では、ヒアリング調査の結果を整理する。これらを基に、3.4 節では、熊本駅周辺整備における WG の“有効性”と“課題”を示す。

表 - 1 ヒアリング調査の対象者

名前	役職	事業との関わり
松永 信弘氏	県庁 土木技術管理室 課長補佐	熊本駅周辺事務所 計画課 課長(H16.4～H18.3)
村田 要氏	熊本駅周辺事務所 計画課 主任技師	熊本駅周辺事務所 計画課 主任技師(H17.4～)
岸井 隆幸氏	日本大学 教授	熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議委員(都市計画) 座長
小林 一郎氏	熊本大学 教授	熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議委員(土木)
田中 智之氏	熊本大学 准教授	熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議委員(建築)・WGリーダー
星野 裕司氏	熊本大学 准教授	熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議委員(土木)・WGサブリーダー
原田 和典氏	崇城大学 講師	熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議委員(サイン)・WGサブリーダー
荒川 雅俊氏	(株)水野建設コンサルタント 設計部	設計者 道路
小池 寛氏	(株)都市総合計画	設計者 デザイン

(役職はヒアリング調査当時のもの)

2. 熊本駅周辺整備の概要

2.1 熊本駅周辺整備の計画

駅周辺事務所が、平成 17 年 6 月に公表した基本計画には、熊本駅周辺の基本方針として、“パークステーション”という構想が掲げられている。これは、西の花岡山・万日山や東の白川・坪井川といった周辺の水と緑の自然を活かしたまちづくりを進める構想である。この条件の基に、WG は調整を進めていく形になっている。一方、平成 18 年 10 月に知事・市長・JR 九州社長・地元経済界代表・学識経験者による「熊本駅周辺整備に関するトップ会議」が設立され、この場では駅周辺の都市機能や乗り換えの利便性向上、JR 九州の所有・管理地の使い方等が協議されており、既存計画で見送られた市電の駅舎乗り入れの再検討を行っている。

2.2 事業概要

熊本駅周辺整備は、駅を中心とした 63.2ha が整備区域である。主な事業は、九州新幹線整備事業、鹿児島本線等連続立体交差等整備事業、熊本駅西土地区画整理事業、新合同庁舎整備計画が挙げられる(図 - 1)。また、表 - 2 に示すように、事業のスケジュールは、ほぼ同時進行で行われている。東 A 地区市街地再開発事業は、民間プロポーザルによる拠点整備であり、駅前という立地から、デザイン調整の重要な対象である。駅前広場に関しては、東口・西口とも熊本アートポリス事業によるもので、東口は平成 19 年 11 月にプロポーザルで設計者が決まり、西口は平成 20 年 5 月に設計競技でデザインが決まる予定である。また、いくつかある都市計画道路整備事業では、公共側の先導によって沿線のデザイン調整を行うことが出来ることから、特に重要な街路については重点的に検討を行っている。

2.3 デザイン調整の仕組み

デザイン会議は、以下に示す 3 つで構成されている(図 - 2)。1 つ目は、空間構成上重要な公共空間と街並み形成上重要な施設との調整を行う「都市空間デザイン会議」(以下、本会議)である。本会議は、岸井隆幸氏(日本大学教授)を座長として、ほか数名の地元学識経験者で

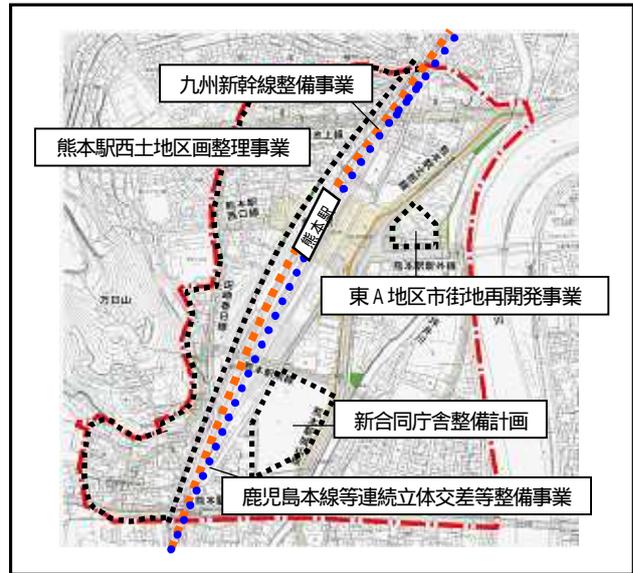


図 - 1 熊本駅周辺整備の整備区域と各事業区域

表 - 2 事業のスケジュール²⁾

事業	熊本駅西土地区画整理事業	九州新幹線事業	鹿児島本線等連続立体交差事業	東 A 地区市街地再開発事業	熊本駅駅舎	熊本駅東口広場	熊本駅西口広場	都市計画道路整備事業	合同庁舎
事業主体	熊本市	鉄道建設・運輸施設整備支援機構	熊本県	熊本市	JR九州	熊本県	熊本市	熊本県・熊本市	国
年度	平成15年 先行費収	平成15年 先行費収	平成15年 用地費収	平成15年 用地費収	平成15年 用地費収	平成15年 用地費収	平成15年 用地費収	平成15年 用地費収	平成15年 用地費収
平成16年	先行費収	先行費収	用地費収	用地費収	用地費収	用地費収	用地費収	用地費収	用地費収
平成17年	工事開始	工事開始	工事開始	工事開始	工事開始	工事開始	工事開始	工事開始	工事開始
平成18年				事業提案					
平成19年				協議締結					
平成20年				建物設計					
平成21年				工事開始					
平成22年		完成予定		完成予定	新幹線駅舎完成予定	暫定整備	完成予定	暫定整備	一棟目完成予定
平成23年									二棟目完成予定
平成24年									工事開始
平成25年									
平成26年									
平成27年									
平成28年	完成予定		完成予定		在来線駅舎完成予定				
平成29年									
平成30年									

構成されている。2 つ目は、上記に含まれない公共空間や本会議で対象とならない大規模な建築物等との調整を行う WG である。WG は、本会議の下部組織であり、行政と地元の若手学識経験者で構成し、関係コンサルタントとの調整を行う実働部隊である。3 つ目は、戸建住宅や生活道路など上記に該当しない施設との調整に活用する「都市空間デザインガイド」(以下、デザインガイド)である。デザインガイドに関しては、事業者や住民と都市空間デザインの考え方を共有するツールとして平成 19 年 6 月に本編を策定し、より実行力のある都市空間デザインのツールとしてデザインの具体例を示した手引き編を平成 19 年度内に策定の予定である。

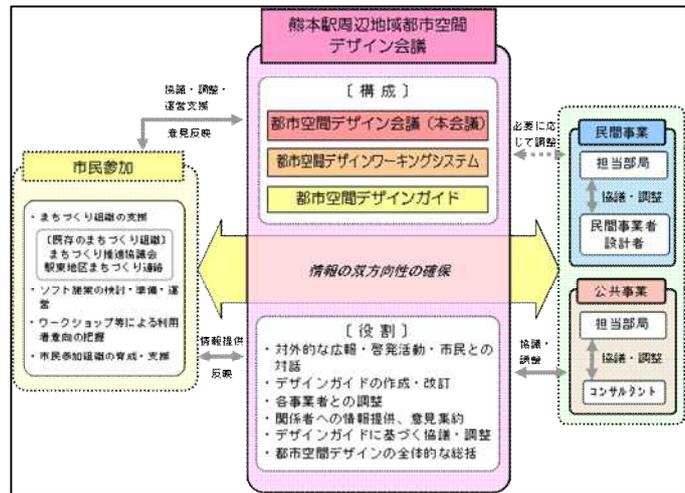


図 - 2 デザイン調整の体制とデザイン会議の役割¹⁾

3 . WG の分析

3 章では、議事調査・ヒアリング調査の結果を整理し、分析を行う。3.1 節では、WG の議事を調べ、WG の体制、WG の経緯を示した(表 - 3.4)。3.2 節では、議題を「公共空間のデザイン」「デザイン調整の仕組みづくり」「民間事業との調整」の 3 つに分け、整理を行った。3.3 節では、ヒアリング調査の回答を議事の整理と同様に 3 つに分けて整理したものを示す。3.4 節では、3.1 節、3.2 節、3.3 節の整理から分析を行う。

3.1 議事調査

(1) WG の体制

WG は、県市駅周事務所(行政)と地元の若手学識経験者の、田中智之氏(熊本大学准教授・建築)、星野裕司(熊本大学准教授・土木)、原田和典氏(崇城大学講師・ID)で構成し、関係コンサルタント(都市・道路・河川等)と一緒に会して調整を行っている(図 - 3)。

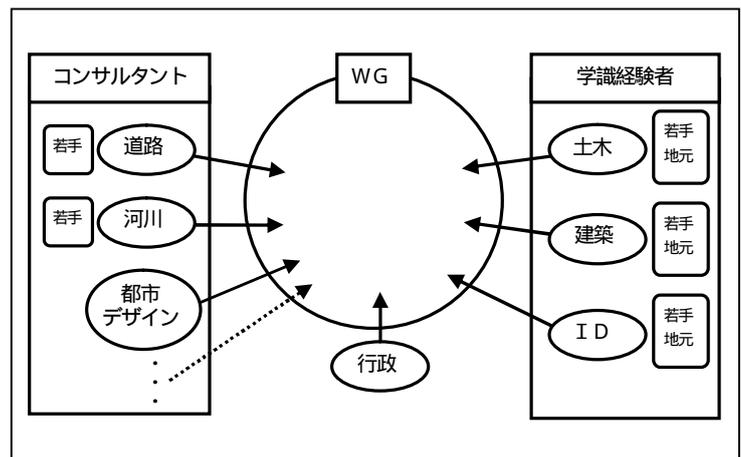


図 - 3 WG の体制

(2) WG の経緯

第 1 回 050906WG から、基本計画を基に、「都市空間デザインの概念整理」「熊本らしさ」「熊本駅周辺地域の目指すべき空間の設定」などのデザインガイドの議論を行っている。また、西口広場、駅舎、東口広場、東 A 地区、坪井川を結ぶアメニティ軸の議論も行われていた。都市デザインという観点からは、アメニティ軸での議論を駅周辺整備の全体に反映させるという考えの下、数十案のプランと模型を作製し、案を分類していくことで検討を行っていた。第 6 回 060111WG で、民有空間の誘導方策についての議論があり、民有空間誘導の条件や考え方が検討された。第 7 回 060123WG から、駅舎に関して議論が行われ、デザインについては、県・市が主体性を持って、機構・JR と検討していきたいということから、駅舎へ望まれるデザイン要件の検討を行い、WG の推奨案を作成している。この期間も WG だけではなくデザイン準備会議が行われており、第 4 回 060317 デザイン準備会議において「都市空間は人の目線から捉える空間のまとまりであるべき」ということから「景」という都市空間の考え方が示された。この時点では、「出会の景」「木立の景」「水辺の景」「行来の景」「路地の景」の 5 景が位置づけられていた。また、第 10 回 060330WG からは、東 A 再開発のプロポーザル要綱について議論が行われている。加えて、デザイン調整の仕組みと流れに関し

て議題があり、デザイン調整をするにあたり、基本的には、全てWGで議論していくことを確認した。第17回060704WGで「本地域の都市空間は“骨格となる3つの空間=景”と“地”の空間”により構成される」として、「出会の景」「木立の景」「水辺の景」の3景に絞られ、(図-4)その後、3景のコンセプトを中心にデザインガイドの検討が行われていった。

第20回060811WGにおいて、「WGでは、デザインガイドの基本方針と3景のコンセプト、空間の考え方、空間のイメージは共有できているので、3景を進める上で、3先生を中心に3グループに分けて、具体のデザイン・概略設計をし、それぞれを持ち寄って議論していく」ことが決定し、平成18年9月1日には「木立の景」と「水辺の景」の小WGが行われた。第22回060919WGからは、3景のデザイン案の議論が行われていった。第23回060928WGでは、整備区域である63haの1/500の模型を用いた議論を行った。この時、「出会の景」は水と緑で熊本らしさを表現、「木立の景」は官民境界がわからない設えで一体的な歩行空間を表現する、「水辺の景」は“みる、みられる”を意識して数珠繋ぎのように表現するという方針になった。これらの表現を良く表し、“景”という都市空間の考え方にも有効であるパースを用いた議論が行われた(図-5,6,7)。

また、第1回061027デザイン会議で、デザインガイドについてデザインしすぎな面が見えるという指摘を受けた。そこで、第27回061206WGにおいてデザインガイドを本編と手引き編の二部構成で作成することが決まった。本編は「駅周辺の都市空間作りについて、長期にわたり共有する考え方や方針」、手引き編は「設計や事業担当者等が、考え方や方針に大きなズレが生じないように手引きする望ましい具体例を提示する部分、市民参加や時代の要請に従い適時更新する」ものである。第29回070110WGでは、機構から新幹線駅舎デザインの説明があり、意見交換を行った。この場から、民間事業者と本格的な調整が始まったといえる。2007年3月には、東A再開発の建設業務代行者が決まり、

第35回070523WGで、権利者との調整もあることから、早期かつ密に調整を行っていくことが決まった。加えて、WGの設置要綱を作成することになり、本会議での3景のデザインに関する説明は学識経験者が行うことになった。

2007年6月には、デザインガイド本編が策定され、第36回070607WGからは、サインや街具、舗装などの具体的な検討事項の議論が多くなった。第37回070620WGに、市民参加に関する議論があり、今後の取り組みとして、デザインガイド本編の普及・啓発、合庁前での道路空間に関するワークショップ等が挙げられた。第38回070705WGでは、市から、駅周辺地域を熊本市の景観計画の重点地区に入れようとしていると報告があり、法的な取り組みも考えられている。2007年9月には、東A再開発事業者がWGに参加し、WG側と東A再開発側のお互いの考えを提示し、調整が行われた。第43回071031WGでは、水辺広場と交流広場に対する再開発側とWG側の意見を一枚の図面にまとめ、検討が行われている。

2007年10月には第1回熊本駅周辺地域UDワークショップ(以下、UDWS)が行われた。参加者は、駅周辺事務所が招待した障害者や地元市民で、内容は、現状の検証で、駅前広場とその周辺のまち歩きが行われた。12月には第2回UDWSが開催され、緑化路面一般路面の定性的実態調査と計画案の意見交換が行われた。

第45回071226WGでは、基本的なサイン計画が出来ていないことから、具体的なデザインと同時並行で検討を行うこととなった。



図-4 都市空間の全体像～3つの景～¹⁾



図-5 「木立の景」パース¹⁾

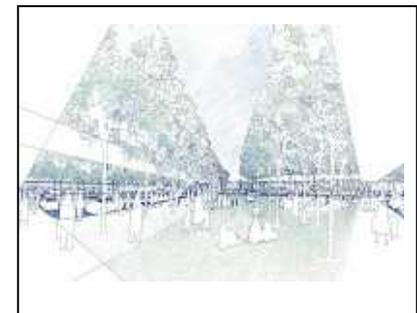


図-6 「出会の景」パース¹⁾



図-7 「水辺の景」パース¹⁾

表 - 3 WG の経緯 (2005.09 ~ 2006.10)

		デザインガイド	アメニティ軸	駅舎	水辺・春日橋	駅広	デザイン調整・仕組み	東 A	民有空間誘導	ペDESTリアンデッキ	出会の泉	木立の泉	水辺の泉	3泉以外の都市空間	サイン	デザインガイド手引き	西土地区画整理	街具・舗装等	合庁	市民参加
2005.09.	050906 第1回WG	○	○		○															
	050920 第1回都市空間専門家準備会議	○			○															
2005.10.																				
	051017 第2回WG	○	○			○														
2005.11.	051102 第3回WG	○	○		○															
	051114 第4回WG	○																		
	051129 第2回都市空間専門家準備会議	○	○		○															
2005.12.																				
	051221 第5回WG		○		○															
2006.01.																				
	060111 第6回WG		○		○				○											
	060123 第7回WG		○	○	○				○											
	060130 第3回都市空間専門家準備会議		○	○	○	○			○											
2006.02.																				
	060221 第8回WG	○	○	○	○															
2006.03.	060307 第9回WG	○	○	○	○															
	060317 第4回都市空間専門家準備会議	○	○	○	○	○		○												
	060330 第10回WG					○	○	○												
2006.04.	060412 第11回WG	○		○	○			○												
	060428 第5回都市空間専門家準備会議 第3回UD準備会議	○	○	○	○			○												
2006.05.	060502 第12回WG		○		○	○														
	060510 第13回WG	○	○		○				○	○										
	060524 第14回WG	○			○				○	○										
	060531 第15回WG																			
2006.06.	060607 第16回WG	○																		
	060628 第6回都市空間専門家準備会議	○		○				○												
2006.07.	060704 第17回WG	○																		
	060712 第18回WG			○																
	060725 第19回WG	○		○																
2006.08.	060811 第20回WG	○																		
2006.09.	060901 水辺・木立WG																			
	060905 第21回WG	○				○			○											
	060919 第22回WG	○				○			○	○	○									
	060928 第23回WG	○								○	○	○								
2006.10.	061004 第24回WG	○									○	○	○							
	061012 水辺WG																			
	061027 第1回熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議	○									○	○	○							

オレンジ色の部分は、(2)にてでくるWGを示したものである。

表 - 4 WGの経緯(2006.11~2007.12)

2006.11.	061108 第25回WG	○								○	○	○	○	○						
	061122 第26回WG	○					○			○		○	○	○						
2006.12.	061206 第27回WG	○			○														○	
	061220 第28回WG	○								○	○	○							○	
2007.01.	070110 第29回WG	○	○		○		○	○												
	070111 水辺WG																			
	070116 木立WG																			
	070125 第2回熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議	○																	○	
2007.02.	070206 第30回WG	○								○	○	○								
	070215 水辺・木立WG																			
	070220 第31回WG	○			○														○	
2007.03.	070305 第32回WG	○	○	○						○	○	○							○	○
	070316 第33回WG	○	○																○	○
	070329 第3回熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議																			
2007.04.	070405 木立WG																			
	070406 水辺・出会WG																			
	070412 水辺WG																			
	070417 木立WG																			
	070425 第34回WG	○	○							○	○	○							○	
2007.05.	070510 水辺・木立WG																			
	070523 第35回WG						○	○		○	○	○								○
	070531 水辺WG																			
2007.06.	070607 第36回WG			○						○	○	○	○						○	
	070620 第37回WG			○							○		○						○	○
2007.07.	070705 第38回WG									○	○	○	○						○	○
	070718 第4回熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議			○	○					○	○								○	
	070724 木立WG																			○
	070731 第39回WG									○		○							○	
2007.08.	070802 木立WG																			
	070820 第40回WG									○	○	○	○						○	○
	070831 木立WG 樹種選定																			
2007.09.	070905 臨時熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議			○						○										
	070919 第41回WG									○	○	○	○						○	○
	070927 東A WG						○													
2007.10.	071003 第42回WG									○	○	○	○							○
	071011 第1回UDWS																			
	071012 東AWG						○													
	071012 木立・水辺WG																			
	071026 東A WG						○													
071031 第43回WG						○			○	○		○						○	○	
2007.11.	071102 木立WG									○	○		○							
	071112 第44回WG									○	○		○							
	071122 第5回熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議			○	○	○				○	○		○							
2007.12.	071205 第2回UDWS																			
	071221 木立WG																			
	071226 水辺WG																			
	071226 第45回WG						○												○	○
	総数	35	14	14	18	13	5	11	7	5	18	21	17	2	12	7	1	9	3	8

3.2 WGの議論分析

3.2.1 議事調査からの分析

3.1のようにWGを時系列に整理をして、議題を見てみると、WG内部だけでの議論である「公共空間のデザイン」、外部に対しての調整の仕組みについての議論である「デザイン調整の仕組みづくり」、外部との調整の議論である「民間事業の調整」について、WGは議論していると思われた(図-8)。

議事の経緯を見てみると、最初の頃は、デザイン調整の仕組みであるデザインガイドの議論も行われていたが、公共空間の骨格となるアメニティ軸の議論が中心となっている。そして、機構が参加した第29回WGの前には、デザインガイドの議論が中心となっている。その後、民間との本格的な調整が始まっているため、WGは「公共空間のデザイン」「デザイン調整の仕組み」「民間事業との調整」についての議論を行っていることがわかる。

以上のことから、「公共空間の調整」「デザイン調整の仕組み」「民間事業の調整」という3視点からWGでの議題を分け、議題の数を調べ(表-5)、WGが何を中心に議論を行っているかを分析し、ヒアリング調査からの回答を合わせ、考察を行った。

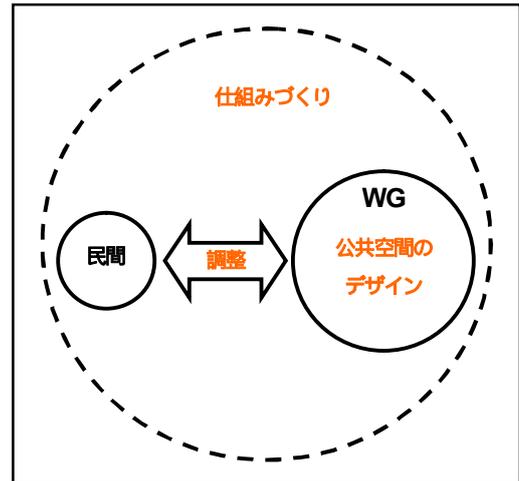


図-8 WGの議論内容

(a) 公共空間のデザイン

都市空間の骨格となる“3景”についての議論数は、約20回と多く、“3景以外の都市空間”と“西土地区画整理事業”については、極端に少ない。また、サイン、街具・舗装等に関しては、12回、9回とあまり議論が行われていない。駅広、ペDESTリアンデッキに関しては、熊本アートポリス事業となったため、設計者が決まるまで調整ができないことから第29回以降議論が行われていないことがわかった。

(b) デザイン調整の仕組みづくり

デザインガイドに関する議論は35回なのに対し、デザインガイド手引き編は7回、市民参加の議論は8回、デザイン調整・仕組み5回と少ないことがわかる。

(c) 民間事業との調整

具体的な民間事業との調整を見ると、駅舎は14回、東Aは11回に対し、合庁は3回と少ないことがわかる。

表-5 WGの議題数

議題	公共空間のデザイン											デザイン調整の仕組みづくり			民間事業者との調整				
	アメニティ軸	水辺・春日橋	出会の景	木立の景	水辺の景	3景以外の都市空間	駅広	ペDESTリアンデッキ	サイン	西土地区画整理	街具・舗装等	デザインガイド	デザインガイド手引き	市民参加	デザイン調整・仕組み	駅舎	東A	民間空間誘導	合庁
数	14	18	18	21	17	2	13	5	12	1	9	35	7	8	5	14	11	7	3

3.2.2 ヒアリング調査からの分析

(a) 公共空間のデザイン

ヒアリング調査では、「骨格となる“3景”をまずきちんと議論しないとイケない。」「サイン、街具・舗装等は“3景”がある程度決まってからでないと議論ができない。」という意見があった。このことから、WGでは“3景”が中心に議論が進められており、サイン、街具・舗装等は、これから議論数が増えていくものだと考えられる。西土地区

画整理事業に関しては、「駅の裏にあたるため重要視されていない」という意見から、議論は行われていないことがわかった。

(b) デザイン調整の仕組みづくり

ヒアリング調査では、「デザインガイドについての議論は時間が掛かりすぎている。」という意見からデザインガイドに関する議論数は多すぎるものだとわかった。市民参加についての意見は、ほとんどのヒアリング対象者から「市民参加を真剣に考えなければいけない。」「デザインガイドを市民に広めなければいけない。」などの意見が得られていることから、議論数は少ないことがわかった。

(c) 民間事業との調整

ヒアリング調査では、「事業の都合でいろいろなことが決まって、機構などと調整がうまくいかなかった。」「東 A は、調整がうまくいっている。」「合庁は、話ができるだけでもいい、通常は話も聞いてくれない。」という意見から、民間事業との調整に関しては、スケジュールの問題が大きいのではないかと見える。

3.2.1 節、3.2.2 節より、議題数が多ければ調整ができており、議題数が少なければ調整が行えていないということはいえないことがわかった。また、WG では、「公共空間のデザイン」の議論が中心となっている。

3.3 ヒアリング調査の整理

ヒアリング調査での回答を「公共空間のデザイン」「デザイン調整の仕組み」「民間事業との調整」の3視点で分け、有効性を、課題を で示した。

(a) 公共空間のデザインについて

立場	意見
行政	他の人がつくったものに、みんなが意見を言っている。 壁をなくそうという意識でやっている。 コンサルタントとの関係でいうと同等的に話しているつもり、 計画が決まっていた感じがしない。
学識経験者	3景を先生が担当しているのはいい。 アメ軸はなかなか決まらなかったが、景という考えになって比較的早くなった。 土木的発想、建築的発想があり、それをどうあわせていくのが難しい。 みんなで議論をして、もう検討しつくしたからこれだ、と。それを積上げて行きたい。 WGで、知恵を出し合っているというか、コンサルが学識に意見を聞いているという図式。まだ、お互いの立場で話し合っている。 多くのコミュニケーションをとることが大事だと思う。 力のいれどころが共有されるべき。土木・建築を結ぶのはサインとかストリートファニチャーだと思う。
コンサルタント	計画に長けた人たちがいる。そういう意味では効果は大きい。 他のコンサルが他のコンサルに意見をいうのも特徴。 自分が担当じゃないところも気にする。 行政とは、比較的一緒にやっている感じはある。 WGは、行政と3先生なのだから、トータルデザインの考え方は3先生がもっていればよい。 どこに効果を求めるかをきめていないこと、目標が曖昧なことが欠点。 フラットすぎる。もっと喧々譁々でやるもの。ひとつの課題に対して、デザインをみんなでグレードアップしていきたい。 確固としたトータルデザインの考え方はまとまってない。 議論が進まない。 みんなが案を持ち寄ってないのが欠点。

有効性の共通意見としては、「行政とコンサルタントに同等的に話している」という意見があった。課題の共通意見は、行政とコンサルタントに、「議論が進まない」、学識経験者とコンサルタントに「力のいれどころが共有されるべきである」という意見があった。全体的に見ると、課題が多くあげられている。

(b) デザイン調整の仕組みについて

立場	意見
行政	手引き編に成果が入っていったバイディングされていくようなものはあまりない。最初は別々の方向を向いていたが、デザインガイドでまとまってきた。将来的には、まちづくりの場とかにもなってほしい。基本的な目標が都市デザイン、土木デザインというものを地元で広めたかった。WGの設立趣旨といったときに継続性、施工・管理までやる。長い期間の事業だから学識もコンサルも若い人を選んだ。一同に会することは、相乗効果にもつながると思う。もっとデザインガイドなどを外に出すことが大事。UDWSだけでなくデザインWSもやるべき。きちんとお金をつけてWGに参加できるようなシステムが必要。設計が終わった後のシステムは考えないといけない。地元でこれからの担う若手の人たちをしっかりと育てていかないとけない。
学識経験者	土木、建築、IDと違う分野の3人がいるのは特徴。若手学識経験者は、継続性と一貫性をちゃんと担保する仕組みの中核的な役割。デザインガイドをまとめる作業からはいいと思う。関係する事業者の中核にいる2つの行政体が一緒になってやろうという意思決定があったことが今回の場合すごく大事。施工、管理まで続いていくと、たいぶ質が変わる。コンテキスト(文脈)を設定しづらく、デザインガイドとかでも苦労した。市民をどう味方につけるかが課題。コンサルを束ねるコンサルが必要だと思う。
コンサルタント	異分野、異業種の人たちが揃っていて、いろいろな情報が聞けるのは大きい。デザインガイドをまとめることで、WG内の意思統一は図れたと思う。長い間続く組織でないといけないと思う。デザインを意識するようになった。先生たちが地元というのは大事だと思う。市民活動をしながらスパイラルアップしていくことが必要。しっかりマネージメントをしないとけない。きちんと業務委託をして責任が発生するかたちで、マネージメントが必要。決定権がどこにあるのかが不明確。デザインや設計の人が少ない。段階に対応するコーディネートが必要。

有効性の共通意見としては、3者共通である、「デザインガイドをまとめることでWG内の意思統一につながった」、「地元・若手の学識経験者がいることは大事である」、「異分野・異業種の人たちが一同に会することは良い」という意見があった。課題の共通意見としては、3者共通で、市民活動に関する意見があり、また、マネージメントに関する意見もあった。全体的にみると、有効的な意見が多い。

(c) 民間事業との調整について

立場	意見
行政	再開発側も調整しようとしている。スケジュール管理などをうまくコントロールできればいい。強制力がない。
学識経験者	外部との調整は、やわらかい状態でのコミュニケーションが大事で、それを地道に積み上げていくことが最終的にはトータルデザインに近づくことができると思う。外との調整は、トーン系がいいと思う。民地との調整ができていない。
コンサルタント	東Aとは調整がうまくいっていると思う。WGは駅周事務所のお抱え組みのようで、外部が入ってきにくく、対立構造になりやすい。でてきたデザインを持って、それとのデザインの調整を図る。コーディネートをはかる。欠点は、待ちにはいる。外部組織に対して、こういう街にしたいから調整しましょうよという定義がないとダメ。

有効性の共通意見として、行政とコンサルタントに、「東Aとの調整はうまくいっている」という意見があった。課題の共通意見としては、行政と学識経験者の、「強制力がないために調整が行えていないところがある」が挙げられる。全体的に見ると、「公共空間のデザイン」「デザイン調整の仕組み」に比べ、意見が少ない。

3.4 WGの有効性と課題

3.1節、3.2節、3.3節から、WGの動きを「公共空間の調整」「民間事業との調整」「デザイン調整の仕組み」に整理し、各段階ごとの“有効性”と“課題”を分析する。

(a) 公共空間のデザインについて

有効性は、行政とコンサルタントに同等的に話しているという意見が挙げられる。しかし、学識経験者は、「WGでは、みんなが知恵を出し合っておらず、コンサルタントが学識経験者に意見を聞いているという図式になっている」という意見があり、3者が同等的に話しているとは言いがたく、ここに改善の余地があると思われる。

課題としては、関係者の人数が多いことなどから、議論が進まないということが挙げられる。しかし、3景の具体的なデザインを検討するときは、小WGという形をとることで、その課題を解決していると考えられる。力の入れどころが共有されるべきであるという意見に関しては、デザインガイドに関する議論に時間をかけていることから、考え方や方針については共有がされている。しかし、本編の議論に時間が掛かりすぎていることから、手引き編やサイン、街具・舗装等の議論が進んでおらず、具体的な力の入れどころが共有されていないと考えられる。

(b) デザイン調整の仕組みについて

有効性としては、デザインガイドをまとめる作業からはじめたことである。これにより、WG内の意思統一を図れ、また、“景”という新しい都市空間の考え方も、デザインガイドをまとめる作業の中から生まれたものであることから有効的であると考えられる。他には、異分野・異業種の人と一緒に会することで、いろいろな意見がでてくることがあげられる。また、他の計画がどうなっているかを意識するので、デザインの統一にも繋がると考えられる。

また、継続性と一貫性を担保する仕組みの中核的な役割として、地元の若手学識経験者をメンバーとすることで、施工・管理までWGを運営することが可能である。また、デザインガイド手引き編に関しても、望ましい具体例を提示し、設計や事業担当者を導くものであり、随時更新されるものであるため、統一性・一貫性を担保する仕組みであるといえる。

今後の課題としては、市民の意見を聞き、反映していくことが挙げられる。市民参加として、WSは行われているが、行政が招待した市民しか参加していない。デザインガイドを市民に広めると共に、公募でのWSを行っていく必要があると考える。また、課題として、マネジメントに関することがあったが、きちんと業務委託をして責任が発生するようにすべきなど、トップがないことをどう担保するかというものであった。

(c) 民間事業との調整について

有効性は、WGが、民間事業者・設計者を呼び、お互いの考え・意見を出し合い、絵を見せ合うことができる場であることが挙げられる。課題としては、やわらかい設計の状態でない、変更することができない事項などもでてくるので、スケジュール管理をきちんと行い、やわらかい設計の段階で調整をすることが重要である。また、強制力がないことに関しては、現在、地区計画等の法的な取り組みも考えられているため、今後の民間との調整に対し有効的なものとなると考えられる。

4. おわりに

本研究では、熊本駅でのWGのあり方を考察するにあたり、WGの議事調査、関係者へのヒアリング調査を行った。これらの結果を整理し、WGの“有効性”と“課題”を抽出した。以下に、結論を列挙する。

- ・ WGの経緯を整理することで「公共空間のデザイン」「民間事業との調整」「デザイン調整の仕組み」という視点を明らかにした。
- ・ 「公共空間のデザイン」に関しては、議論は多く行っているものの、課題がある。
- ・ 「デザイン調整の仕組み」に関しては、有効性があり、重要な部分である。
- ・ 「民間事業との調整」に関しては、課題は多くあるものの、有効的な部分もある。

現在、ヒアリング調査を行ったのは、本会議、WGのメンバーだけである。今後は、調整を行ってきた民間事業者・設計者に対してもヒアリング調査を行い、デザイン調整システムとしての可能性を探っていきたい。また、他の調整システムとの比較を行い、より明確な有効性と課題を抽出したい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、終始適切な御指導を下さいました大学院自然科学研究科星野裕司准教授に深く感謝申し上げます。また、折にふれて細やかな御指導、御助言を下さいました大学院自然科学研究科小林一郎教授に心より感謝申し上げます。筆者の突然のヒアリング調査に快く対応して下さった方々のご協力がなければ、本研究をまとめることはできませんでした。ここに深く御礼申し上げます。さらに、村田要氏（熊本駅周辺整備事務所計画課主任技師）には、資料提供やご助言いただき、ご協力していただきました。ここに深く御礼申し上げます。

また論文執筆にあたり、ご自身の時間を割いてまで付き添い支えてくださいました増山晃太さん、今井洋人さんには多大なるご指導頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。

最後に景観デザイン研究室の先輩方には、様々な面で御協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表し本研究の結びといたします。

平成20年2月28日

山本良太

参考文献

- 1 熊本県・熊本市；熊本駅周辺地域都市空間デザインガイド 本編、2007.6
- 2 熊本市HP；www.city.kumamoto.kumamoto.jp/toshiseibi/kumamotoeki/index.htm